

[概要]

現在、地方都市における第三セクター鉄道は少子高齢化やモータリゼーションの発展などにより利用者が減少し、経営的に厳しい状況に置かれている。富山県においては北陸新幹線の開業により、新幹線の並行在来線として新たにあいの風とやま鉄道と呼ばれる第三セクター鉄道が開業した。本研究では、そのあいの風とやま鉄道に注目し、沿線高校在籍生徒へのアンケート調査から、利用拡大の可能性について分析した。その結果、鉄道が第三セクター化されることによって、高校生の鉄道に対するニーズと現在の運行状況に不一致が生じてきていることを明らかにした。あいの風とやま鉄道はJR西日本から経営分離された際に、運賃の値上げやダイヤ改正を行ってきた。こうした変更が高校生にも大きな影響を与えてきているといえる。実際に運賃や運行本数に対する不満の声が多くみられ、利用拡大のためには改善が必要である。また高校生のマイレール意識の低下も問題となっている。鉄道を運行するためには鉄道会社だけではなく、沿線住民や行政との連携が必要不可欠であるということを認識させていくことが重要である。以上のことから高校生にとって、あいの風とやま鉄道はより利用しにくくなってきているといえる。今後、鉄道が存続し、地域を支えていくためにも、鉄道利用者に柔軟に対応した最適な交通になっていかなければならない。